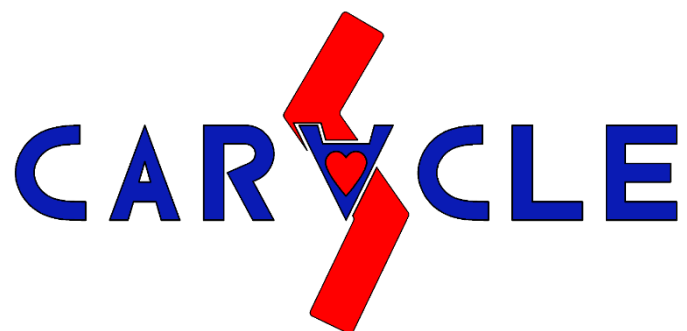




取扱説明書

適応車種
CARACLE-S rev.3(20 インチ HE)
標準仕様/スポーツ
2020.04.01 版



**注意: 世界一コンパクトになる CARACLE-S ですが、公共交通機関を使つての
ご使用は他の方のご迷惑にならないよう注意が必要です。
通勤通学時間帯など混み合った車内への持ち込みはお控えください。**



CARACLE-S スポーツ



CARACLE-S 標準仕様

この度はお買い上げ誠にありがとうございます。

**自転車を安全かつ快適にご使用いただくために必ずお読みください。
お求めいただきました自転車の性能を十分に引き出し安全にお乗り
いただくための注意を記載しています。**

**お乗りになる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用
下さる様、お願いいたします。**

また、この取扱説明書はお読みいただいた後、大切に保管してください。

目次

安全へのご注意、防犯登録について.....	02
乗車する前に.....	05
各部名称.....	06
乗車する前に.....	05
安全に乗っていただくために.....	07
乗車時の確認.....	08
CARACLE-S の主な構造.....	09
CARACLE-S の折りたたみ方.....	12
クイックリリースハブの取り扱い.....	14
自転車の点検.....	15
各部詳細.....	16
日常の点検と調整.....	24
交通ルールを守りましょう.....	25
定期点検・整備チェックリスト.....	26
オプションパーツ.....	27

安全へのご注意

安全にご使用いただくため、本書では次のような表記が使われています。

ご使用される人や他人への危害や財産への損害を防止するため、必ず遵守いただく事を次の 2 項目に分けて説明しています。

警告

この表示を無視して誤った扱いをされると、死亡及び重症を負う可能性があります。

注意

この表示を無視して誤った扱いをされると、傷害を負う可能性、および物的損傷が想定される内容です。

防犯登録について

- ・ 防犯登録は「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律第 12 条 3 項」により義務付けられています。
- ・ 防犯登録は、お買い上げ(納車)の際、必ず販売店にて行ってください。
- ・ 防犯登録は、有料です。
- ・ 自転車が盗難にあった時は地元警察に直ちに届出をしてください。その際、防犯登録番号が必要になりますので、防犯登録控えはしっかりと保管して下さい。

警告

CARACLE-S※最大許容総重量 80kg以下

総重量とは乗員重量と積載装置と総積載重量の合計です。「例」積載装置の重量が 1kgで荷物の総重量が 4kgの場合は最大許容積載重量 80kgから 5kgを引いた 75kgが最大乗員体重となります。

自分で改造しない。

破損や事故のもとになり耐久性を著しく損なう可能性があります。

車輪の脱着やサドルの調整をした後、締め付けを確認せずに乗らない

車輪やサドルが外れて転倒し、怪我の原因になります。

サドルは、はめ合わせ限界標識が規定を越える状態で乗らない

折れたり抜けたりして転倒し、ケガの原因となります。

キャリア、サドルバッグについて

シートポスト部に取り付けをするキャリア、サドルバッグ等の推奨オプション以外のパーツの装着はシートポストに負荷がかかり、折れる原因にもなりますので、安全のため絶対に装着しないでください。

雨天走行時について

ブレーキの制動力はブレーキシューとリムの摩擦によって発揮されます。雨天時にリムが濡れているとブレーキシューは滑り、制動力は低下し、制動距離が伸びます。雨天時でなくても、水たまり等濡れた場所を走行し、リムが濡れた時にも同様の事が起こりますので注意してください。

お酒や薬など運動機能が低下するものを食べたり飲んだ時は乗らない

正常な運転が出来ず、事故や転倒によるケガの恐れがあります。

ハンドルから手をはなしたり、ハンドルに荷物を掛けたり、ペットをつながない

正常な運転が出来ずバランスをくずしたり、傘や荷物、ひもが車輪に巻き込まれ転倒しケガの恐れがあります。

ヘルメットの着用

自転車に乗る場合は必ずヘルメットを着用してください。ヘルメットの着用は身を守るだけでなく、自転車マナーの向上や自転車の社会的認知にも一躍かっています。

グローブの着用

自転車に乗る際はグローブを着用してください。グローブは走行中の手の疲労を軽減するだけでなく、転倒時に手のひらや手の甲を保護してくれます。

駐輪時の注意

自転車を放置する行為は法令で禁止されています。自転車は決められた場所に駐輪してください。自転車から離れる場合は防犯のため必ず施錠してください。(CARACLEにカギは付属していません。別途お求めください。)地面に傾いている場所にスタンドを使って駐輪すると、自転車が倒れる恐れがあり、注意が必要です。また、風が強い日には自転車が倒れる可能性があります。倒れた自転車で人が怪我をする事もありますので、

駐輪場所には十分な配慮が必要です。

注意

走行に適した地形

CARACLE-S は小径タウンスポーツ車です。街での移動を快適にし、タウンサイクリングをスポーティに演出する仕様となっています。そのため、マウンテンバイクが走行するような悪路での走行には向きません。**(大変危険ですので絶対オフロードでの乗車はやめてください。)**また、CARACLE-S は基本的に車道を走行することをメインとして設計されていますので、歩道の段差を乗り越える際ハンドルを取られ転倒する恐れがあります。同様に階段や段差の大きい路面を走行すると転倒の危険だけでなく自転車の破損を招く原因となります。

折り畳み及び展開時

- 組立、折り畳みの際はギア、折り畳み部等で手を挟まない様にご注意ください。
- 組立後は異常がないことを確認してから乗車してください。
- 組立は各部に緩みやガタが無いよう、確実に固定してください。ガタや異常がある場合は直ちに使用を中止し、自転車販売店にご相談ください。

部品交換上の注意

CARACLE-S の部品交換は購入時に装着済みの標準部品及び同等品、弊社推奨の部品(弊社カタログに掲載のオプションパーツ)以外の部品は絶対に取り付けないでください。

標準部品、オプションパーツの取り付けに関してはお買い求めの販売店にご相談ください。

夜間の走行時

夜間の無灯火運転は法律で禁止されています。夜間走行及び、暗い場所を走行する際は、ライトを点灯してください。自転車本体に付属していない場合は自転車販売店にてライトをお買い求めください。

廃棄について

自転車を廃棄する場合には、各地方自治体の定める、分別や回収のルールに従ってください。または販売店にご相談ください。

譲渡について

自転車を譲渡される場合は、保証書とともにこの取り扱い説明書も同時にお譲りください。

サングラスの着用

虫、ごみ、紫外線から目を保護するため、サイクリング用サングラスの着用を推奨しています。

立ち漕ぎ、アクロバットな乗り方をしないこと

立ち漕ぎやアクロバットな乗り方はバランスを崩し転倒、破損してしまう可能性がありますので安全のため、避けてください。

乗車する前に

自転車に乗車になる前に、必ず以下のような箇所を点検してください。

不備があるまま乗車すると自転車の破損だけでなく他人へ危害を与えることになります。

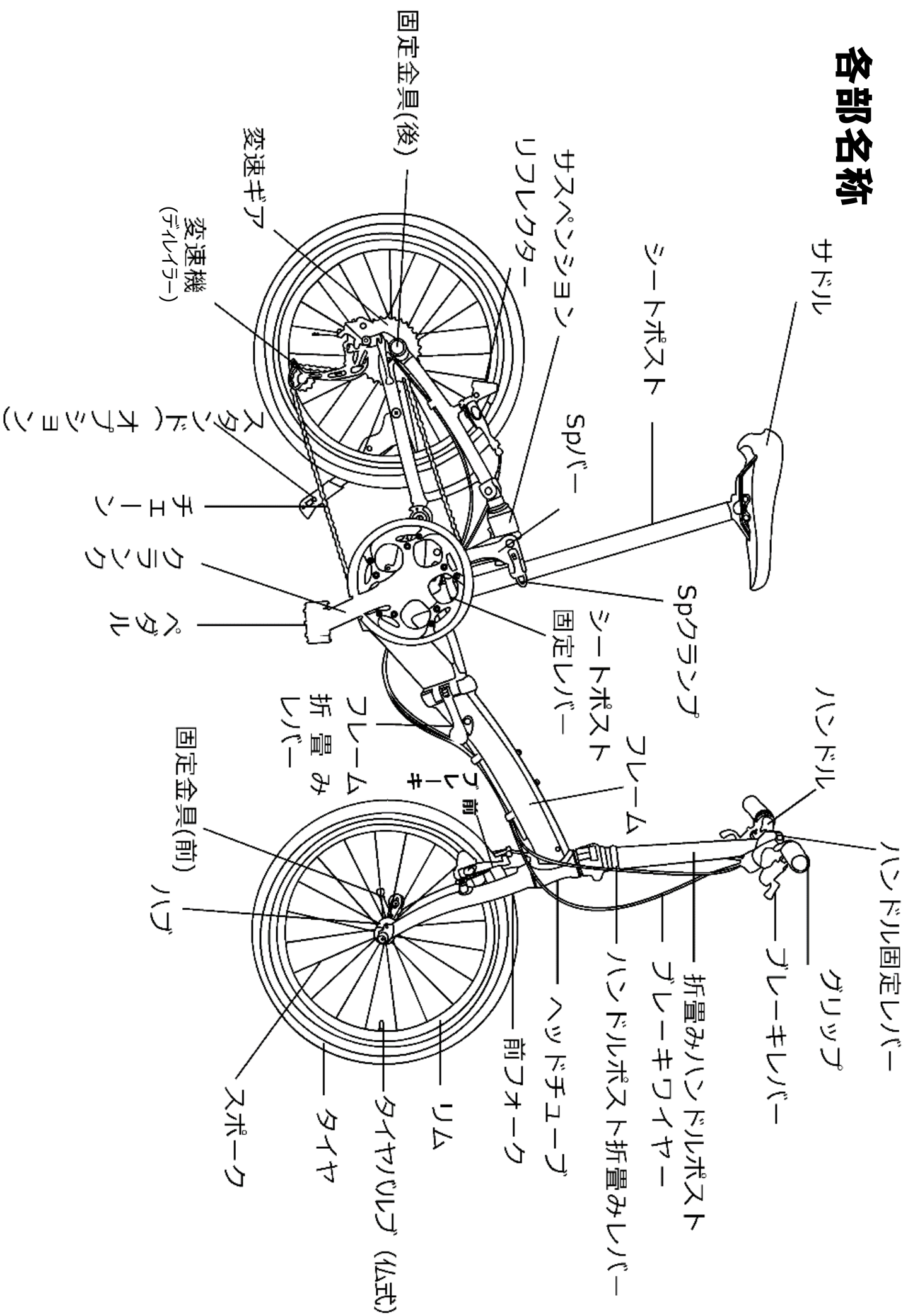
ブレーキはよくききますか？	●左右ブレーキレバーを握った時ブレーキレバーとグリップのすき間が1/2～1/3になるまでにブレーキはききますか？ ●ブレーキワイヤにサビや折れ曲がりがあると、重くなったり、ブレーキがきかないことがあるので、特に注意してください。
車輪はしっかり固定されていますか？	●自転車を持ち上げて車輪を上から強く叩いても擦れたりガタついたりせず、前フォークやフレームにしっかり固定されていますか？ ●クイックリリースハブの場合レバーを閉じた時に薬指一本で解放しようとしたときに緩まない程度に締め付けられていますか？
ハンドルやグリップ、ブレーキレバーはしっかり固定されていますか？	●がたつきはないですか？ ●前進方向に対し、直角に取り付けられているか？ 固定の確認方法：大人が車輪を両足で挟んで動かなくしている状態で、ハンドルの左右を持って上下左右にひねろうとしても動かないですか？
サドルはしっかりと固定されていますか？	上下左右及び前後にひねろうとしてガタついたり動いたりしませんか？
タイヤの空気圧は十分ですか？	人がサドルに乗った状態でタイヤの設置面の長さが約9～10cmが目安です。空気圧が低すぎるとタイヤの消耗が激しくなり、パンクの原因となり走行時の抵抗となる原因となります。
変速機は正常に動作しますか？	クランクを正回転させながらシフトレバーを操作した際、変速はスムーズですか？チェーンがロー側及びトップ側に外れませんか？
各部のネジはゆるんでいませんか？	自転車を10cm程度持ち上げ軽く落として異音はありませんか？異音がある場合はネジがゆるんでいます。
フォーク	変形、ガタつき、ひび割れは無いですか？

上記で異常が見つかった場合は直ちに使用を止め、自転車販売店にて整備を行ってください

これくらい大丈夫だろうという勝手な判断は絶対にやめてください。

スポーツ用自転車やパーツはしっかりとした整備を行うことによって本来の性能を保つ事が出来ます。「ペダルを漕いでも異音がする」程度でも構いませんので感じている違和感や症状などを販売店へ伝えてください。

各部名称



安全に乗っていただくために

正しいブレーキのかけ方

- ブレーキは前と後ろの両方を用います。順番としては後ろブレーキをかけ、次に前ブレーキをかけます。どちらかだけだと転倒の原因となり、事故のもとです。
- ブレーキは止まるだけではなく、スピードコントロールにも使います。
- 下り坂ではブレーキレバーに手をかけ、ブレーキを少しずつかけながら走行しましょう。
- 急ブレーキはスリップや転倒の原因となり事故のもとです。
- 雨の日のブレーキはスリップしやすいので慎重に行いましょう。
- ブレーキは余裕を見て早めにかけましょう。

安全なカーブの曲がり方

- カーブは見通しがききません。衝突等の事故防止のためカーブの手前では十分にスピードを落としましょう。
- カーブ内側のペダルが上になっている状態でペダルを動かさず曲がりましょう。カーブ内側のペダルが下になっている状態でカーブに入ると、ペダルが路面に接触し、転倒事故のもとになります。
- カーブ途中で急ブレーキをかけるとタイヤがスリップし、転倒しやすいので注意してください。

天候の悪い日には

- 傘をもった片手運転は絶対にやめましょう。不意にバランスが取れなくなり、転倒の恐れがあります。
- レインコートを着て乗る時は、裾が引っかからないように十分注意して乗りましょう。
- 風の強い日は急にハンドルが取られることがあります。あまりスピードを出さない様にしましょう。
- 雪や凍結した路面は滑りやすく大変危険です。無理をせず押して歩きましょう。
- 霧の中では見通しが悪く、大変危険です。必ずライトを点灯させ、注意して走行しましょう。

路面状態に注意

- 小石、砂が散らばっている路面で急旋回や急ブレーキはスリップしやすく危険ですのでやめましょう。
- ジャリ道ではハンドルを取られやすく大変危険です。タイヤやリムの破損、パンクの原因にもなりますので、なるべく押して歩きましょう。
- 凸凹な道ではペダルが地面に接触することがあり、転倒することがあるので注意が必要です。
- 市街地ではミゾ及びミゾのカバーに思わぬところではまり、転倒することがあるので注意してください。
- 工事中などで鉄板が敷かれた場所を走行する場合はすき間やスリップに注意しましょう。

自動車・歩行者に注意

- 自転車は原則車道通行です。周りの自動車、バイク、歩行者に注意して道路の左側を走行しましょう。
- 大型の車両の真後ろはバックミラーの視界に入りません。注意して走行しましょう。
- 駐停車や渋滞で止まっている自動車の横をすり抜けていく際、不意にドアを開けられぶつかってしまうことがありますので、注意して徐行しましょう。

乗車時の確認

正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢が取れるよう、サドルの高さを、乗車する人の体格に合わせてください。

疲れず安全に乗るには無理のない乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルのにぎりの部位において以下の3つの操作が容易に出来るようサドルの位置を適正に調整してください。

1:ブレーキ操作が確実にできる

2:ハンドルの操縦操作が容易にできる

3:ペダルリングが円滑にできる

サドルの高さ

●サドルに腰を下ろし、ペダルを一番下まで回して足を乗せた時に膝が軽く曲がる程度の高さが適正です。

●初心者や小柄な方は両足のつま先が十分地面に接するか、又はかかとが少し浮くくらいでサドルを調整してください。

注意：最も高くした場合でもシートポストのはめあい限界標識が規定の位置に収まるようにしてください。限界より高い位置で固定した場合、シートポストが折れてケガの恐れがあります。

CARACLE-S の主な構造

折り畳み時の注意

- 折りたたむ際、レバーやフレームで指や手足を挟まないよう、十分に注意してください。
- 周囲に人や壊れ物がないかをご確認の上、安全かつ広い場所で折り畳みをおこなってください。
- 各部ネジの緩みやロック機構の外れは事故の原因となります。
- 折りたたみ自転車を安全に乗るためには、完全な組み立てを確認してからご乗車ください。
- 自転車を安全で快適に乗り続けるためには、定期的な点検及びメンテナンスが必要です。
- 折りたたんだ状態で、列車などの公共交通機関を利用する場合、各運行会社の条件に従い、必ず専用の袋に入れてお持ち込みください。その際にペダルや折りたたんだフレーム、ギアなどでケガをしないよう、また第3者に接触しないよう、十分に注意いただき、持ち運んでください。
- 持ち込みを禁止している路線や時間帯が無い、事前に必ず運行会社に確認してください。

折りたたみハンドルポスの折り畳み方

CARACLE-S は、ハンドルとステムを合わせて折りたたむ構造を採用しています。折り畳みは、まずハンドルポスト下部にあるロックを解除し、レバーを緩め、ヒンジプレートをヒンジ部から解放します。この状態で、ハンドルを倒すことで折りたためます。組み立てる際には、ハンドルポストをもとの位置まで起こし、レバーを締め、ロックを掛けることで固定されます（モデルにより手動ロックと自動ロックあり）。その際しっかりとハンドルポストを起こしていないと、ヒンジレバーを締めても固定されません。



ロック機構は折りたたみレバーが外部からの衝撃等で緩んでしまうのを防ぐための安全装置です。自動ロックモデル以外は、ヒンジ部を固定した後に必ずロックをかけてください。

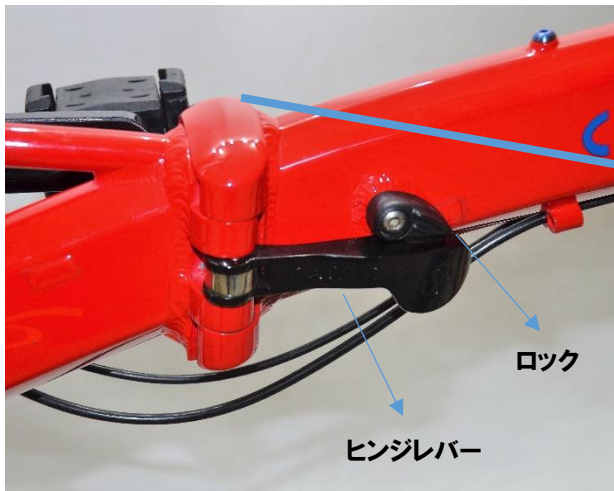
「テレスコピックハンドルポスト 2」装着モデルは、ヒンジレバー操作前に折り畳み後に干渉のないハンドル高さに固定して下さい。通常、目盛り「2」付近が適正位置ですが、周辺パーツの位置変更や交換をした場合、オプションとして別モデルから同モデルに交換した場合は、適宜調整して下さい。



CARACLE-S の主な構造

メインフレームの折り畳みの構造とロックの仕方

CARACLE-S はより小さく折りたたむためにメインフレームが折れる構造になっています。メインフレームの中ほどにヒンジがついており図の部分で折りたたみが行えます。折りたたむ時にはメインフレームのヒンジレバー部のロックを解除し、ヒンジレバーを緩めヒンジ部分からヒンジプレートを解放することにより折りたためます。この時ワイヤーがヒンジ部に引っかからないよう注意して折りたたみを行ってください。引っかかったまま無理に折りたたみをするとうワイヤーが傷ついたり、折れてしまう事があります。組み立てる際は折りたたみの反対の手順で行い、メインフレームが真っ直ぐに合わさったらヒンジレバーを締め、ロックを掛けることで固定されます。ヒンジレバーを締める際、ヒンジプレートがメインフレームのヒンジ部に収まることを確認しながら組み立てを行ってください。ヒンジプレートがヒンジ部に収まっていない状態で無理に組み立てを行うとヒンジ部が破損してしまう原因となります。



ロック機構は折りたたみヒンジレバーが外部からの衝撃等でふいに緩んでしまうのを防ぐための安全装置です。

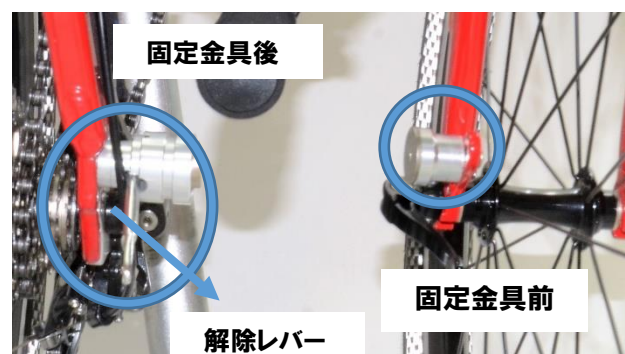
ヒンジ部を固定した後は必ずロックをかけてください。

固定金具の構造

CARACLE-S は折りたたみを完了した後にフレームが開かない様、固定金具を装備しています。固定金具はマグネット式となっており、固定時には固定金具同士を吸着することにより固定力を発揮します。

また、解除レバーが装備されている固定金具は、レバー操作により、簡単に固定を解除できます。

※車種や世代により、図と形状が異なるものや、解除レバーの無いモデルもございます。



CARACLE-S の主な構造

SPバー、サスペンションの構造

SP バー(サポートバー)、サスペンションはリアフレームとシートポストを接続し、メインフレームに接合する部分の構造を指します。SP バーはシートチューブを延長する機能を持ち、SP バーとサスペンションを折りたたむことにより小さく折りたたむことを可能にしています。また、一般自転車のリア三角にあたる部分にサスペンション構造を取り入れることで路面からの突き上げを和らげています。



サスペンションのメンテナンスに関しては、本体部分を乾いた布で拭いてください。また、ネジ類が緩んでないか、損傷や機能に異常がないかを点検してください。3ヶ月毎、あるいは長距離走行や水濡れ後はサスペンションとサスペンションの両端の車体取り付け部分に注油してください。汚れがひどい場合はよく絞った布で拭きとってください。エアーストマー式は空気圧を確認してください。エラストマー式はエラストマーの消耗を確認し、変形

や亀裂等の劣化が発生していた場合はエラストマーの交換を販売店に依頼して下さい。

サスペンションが正常に機能していない場合や、異音や異常な振動を生じた場合は乗車をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。

サスペンションの種類

CARACLE-S はモデルによりエアーストマー式またはエラストマー式サスペンションのいずれかを採用しています。また、オプション部品として他タイプのサスペンションの装着が可能です。

エアーストマー式は耐久性に優れ、推奨空気圧 100-150psi(6.8-10.3bar)の範囲内で、クッション性の調整が可能です。推奨範囲外で使用すると、破損やサスペンション後部が回転して折りたためなくなる原因になります。可燃性ガスやオイルを使用しない安全な仕様ですが、密閉構造のため航空会社や搭乗国によっては輸送が制約される可能性があります。

エラストマー式は軽量で、非密閉構造のため航空輸送に適しています。エラストマーの交換によりクッション性の調整が可能です。

CARACLE-S 折りたたみ方

1:ペダルをたたみ、右クランクを時計の 10 時の位置に合わせる
※オプションの着脱式ペダルを装着した場合は、折りたたみ前に外して下さい



2:フロントフォークを右に 180 度回し、折りたたみハンドルポストのロックを外し、ヒンジレバーを緩め折り畳みハンドルポストを折りたたむ。



3:SPクランプのレバーを緩め、リアフレームを下方に折りたたむ



4:フレーム中央部の折り畳みレバーを解除し、左手でヘッド部を持ちあげつつ左に180度折りたたむ。この時、前後についている固定マグネットをしっかりと吸着させてください。



CARACLE-S 折りたたみ方

5: サドルを下げて折りたたみ完了です。縦置きする場合は、安定する高さで固定してください。

補足: モデルによってはサドル後部につけ手がありサドルを下げる際 45 度ほど左に回しておくと、持つ時に車体が傾かず、持ち運び易くなります。ただし、取っ手の無いスポーツ用サドル採用モデルはサドルでなく、車体を持って持ち運んで下さい。



6: 屋内などで持ち運ぶ際、サドルを引き上げればサドルを持ち手にして転がして運ぶことができます。



組み立てる際は、折りたたみと逆の順番で行ってください。

組み立て前後に、ブレーキや変速機のワイヤー類が、絡まっていないか、チェーンが脱落していないかを合わせて確認いただき、最後にSPクランプ、シートクランプ、折りたたみハンドルポストヒンジや、フレームのヒンジ等がしっかりと固定され、ロックされているかを確認してください。



注意

フレーム、ハンドルポスト等折りたたみ部位のQR操作時や折りたたみ時に強い抵抗感がある場合は一度戻してから再操作してください。強引に折りたたもうとすると、事故に繋がる破損を招く恐れがあります。改善しない場合は速やかにお買い上げの販売店で点検を受けてください。

クイックリリースハブの取り扱い

※クイックリリースハブは車輪の脱着が容易にできていますが、使用方法を誤ると非常に危険です。クイックリリースハブの使用方を正しくご理解の上お取り扱いください。

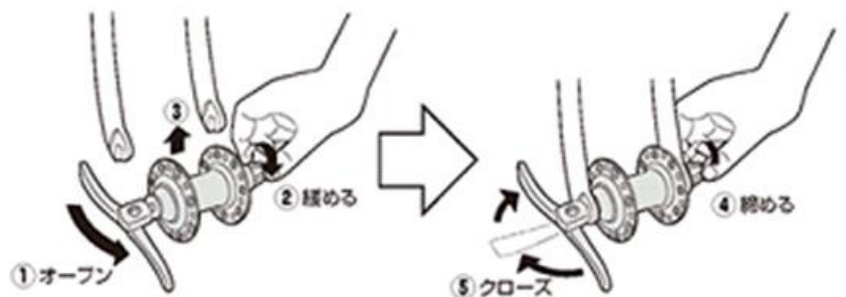
リリースレバーを解除している状態では、絶対に自転車に乗らないでください。車輪が外れてしまい大変危険です。

クイックリリースハブの構造

クイックリリースハブはレバーがカム構造となっており、このカムレバーを閉じるとハウジングと調整ナットが内側に動く力により車輪をフレームに固定します。

取り付け

取り付けの際クイックリリースレバーをOPEN 位置に倒し車輪をフォークエンドの奥に当て確実にセットします。その後、クイックリリースレバーと反対側にあるネジを強めに締め、クイックリリースレバーをCLOSE 位置に倒します。



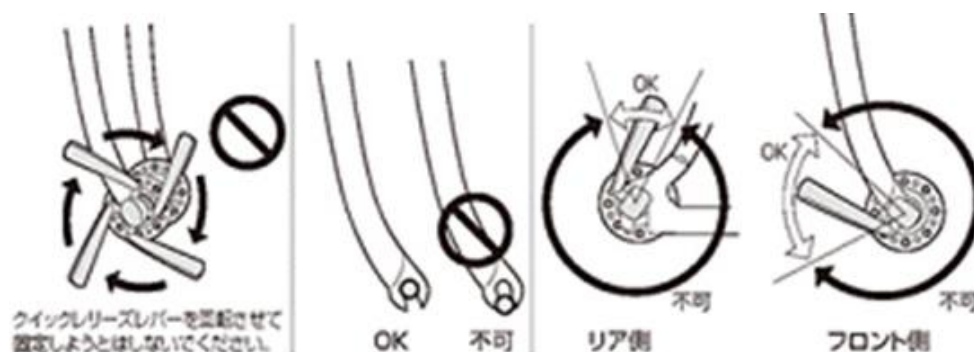
車輪脱着

クイックリリースレバーを回転させて、車輪をフレームに固定するのは絶対にやめてください。

レバーを回転させただけでは車輪はフレームに確実に固定できません。

車輪が適切に固定されていない場合重大な事故の原因となりますのでご注意ください。

安全のため、CLOSE 位置のクイックリリースレバーの位置がフレームに沿うように調整してください。



自転車の点検

自転車は一般的に納車時に販売店による最終組立てと整備がなされています。しかし、使用に伴い、徐々に部品の緩みや消耗を生じ、追加の整備が必要になります。ここでは使用開始後に必要になる点検について、おおまかに説明しています。

初回点検 納車～3ヶ月	納車から3ヶ月以内、もしくは100kmの走行程度の時期に行う点検を(初回点検)と言います。(初回点検)は必ずお買い求めの販売店で受けてください多くの自転車は、ブレーキや変速機の操作をワイヤーによって行っています。ワイヤーは初期伸びを生じるため、ブレーキの利きが低下したり、変速の調子が悪くなります。そのワイヤーの初期伸びを取り、ブレーキや変速機の再調整を行うのが(初回点検)の主な目的です。また、各部品同士が「馴染む」過程で生じた緩みやがたつきを調整し、その他の部位の異常があった場合の早期発見につながります。(初期点検)を行っておくことでその後のパーツの性能が持続することにもなります。
定期点検 6ヶ月ごと	購入から6ヶ月後、12ヶ月後には定期点検を行ってください。(定期点検)は必ずお買い求めの販売店にて受けてください。定期点検はパーツの再調整を行うだけでなく、消耗パーツの点検や交換、グリスアップなどを行います。安全に長くご使用いただくためにも、定期点検は重要です。また、長期間使用しなかった場合でも、再度使用される際には点検を行ってください。
日常点検 及び整備 乗車毎に	本書5ページにある「乗車する前に」を参考に乗車の際は必ず点検メンテナンスを行ってください。違和感があったり、異常を発見した時には走行をせず、ただちにお買い求めの販売店に相談してください。

注意:一般的に販売店での点検、および整備は有料となっています。

各部詳細

フレーム及びフロントフォーク

フレーム	フレーム及びフロントフォークは強い衝撃を受けていなくても経年劣化によりフレームにダメージがたまり、ひび割れ等が発生する場合があります。目視点検や走行時に、違和感がある場合はお買い求めの販売店でご相談ください。
フロントフォーク	フロントフォークにガタや緩み及びひび割れ等がありましたらお買い求めの販売店にご相談ください。
フレーム固定 ヒンジの確認	CARACLE-S はフレームの中ほどで折りたたむ構造です。ヒンジプレートがしっかりフレームに嵌っている事を確認し、ヒンジレバーを完全に締め、ロックを確実にかけて、ヒンジ部分にガタがない状態で乗車してください。また、ヒンジレバーを締めていてもガタつきがある場合は、絶対に乗車せず、お買い求めの販売店で点検を受けてください。 
リアフレーム固定	リアフレームに備わっているSPクランプがシートポストに固定されている事を確認してください。固定ができない場合はお買い求めの販売店で点検を受けてください。 
アクセサリ台座 内蔵ヘッドマーク	ヘッドチューブに、オプション品装着用 M6 台座 (30/16mm 間隔) を設けています。使用時はヘッドマークを剥がして下さい。純正以外のアクセサリ装着は、保証の対象外です。   使用例 (社外品)
リアヒンジ (小BB)	リアヒンジ(小BB)が正常に固定されているか定期的にお買い求めの販売店で点検を受けて下さい。 
プロテクトパッド	折りたたみ時に接触する部分に貼り付けすることで、傷つきを軽減できます。お好みにより貼り付けてください。   

各部詳細

折りたたみハンドルポスト及びハンドル

折りたたみハンドル ポスト固定	折りたたみハンドルポストを真っ直ぐに伸ばした状態で、ヒンジプレートが確実に嵌めあっているのを確認し、ヒンジレバーを完全に締め、ロック（手動または自動）を確実にかけて、ヒンジ部分にガタがないことを確認してください。 右図のような状態だと固定されず、大変危険です。ヒンジプレート、ヒンジレバーを締めた状態でガタがある場合は乗車せずお買い上げの販売店で点検を受けてください。 ○  ✕ 
折りたたみ時の 角度、ハンドルの 固定	ハンドルの固定クランプは、ハンドルを任意の角度に調整する機能が備わっています。折りたたみの際は、ハンドル、ブレーキ等の角度によってはクランク等に干渉して折りたたみが出来なくなる事があります。折りたたみの際、ハンドルの角度をブレーキレバーが真下か、やや前方を向く角度に調整してください。 ハンドルのクランプ部分の固定レバーはしっかりと締め、自転車の前方、前タイヤ側からまたがり、ハンドルを押さえ込み、力を入れてもハンドルが左右に回転しないよう固定してください。  
ハンドルの定期的な点検	折りたたみポストクランプ部の緩み、転倒等によるハンドルの変形やヒビの有無、ブレーキレバーのネジの緩み等、ハンドル周りは定期的に点検を行ってください。ハンドルの動きに異常を感じたらそれが転倒の要因になり大変危険です。異常、違和感を感じたときはただちにお買い求めの販売店にご相談ください。

各部詳細

サドル

シートポストの上限	シートポストは高さの調整ができます。CARACLE-S はSPクランプの上端が、シートチューブ(シートポストが入るパイプ)の上端となっており、SPクランプの上端をシートポストの嵌めあい限界線を超えないように調整してください。わからない場合はお買い求めの販売店で説明を受けてください。  この上端まで！  シートポスト 嵌めあい限界線
シートポストの高さ調整	CARACLE-S はシートクランプとSPバーがクイックリリース構造になっており、この 2 点を緩めることによってシートポストの高さ調整が行えます。その際、フレーム中央部のハンドルを少し引き上げて SP クランプをシートポストから浮かせるとスムーズに上下できます。お好みの高さに調整されましたら、必ず、シートクランプ、SPクランプの二点を締めて確実に固定してください。クイックリリースの固定方法がわからない場合は、お買い求めの販売店で説明を受けてください。 
シートポストの下限	シートポストがフレームの下部から大きく飛び出した状態で乗車するとシートポスト下端が路面の段差に当たって転倒する可能性があります。大変危険です。サドル高はシートポスト下端が前ギアの下端を超えない範囲で調整してください。ご不明な点がございましたらお買い求めの販売店で説明を受けてください。 
サドルの固定について	サドルは進行方向に向かって真っすぐに固定します。また、サドルの上面は地面と平行にするのが基本です。最初にフレームを正立状態で地面と平行な状態を作り、しばらく乗ってみて、そこから自分に合った角度を探しましょう。サドル本体はサドル下側にあるヤグラの固定ボルト 2 点で固定されています。サドルの前後を持って押したときにぐらつきがあれば固定ボルトを増し締めしてください。締め付けトルクは 20Nm です。トルク管理ができない場合はお買いあげの販売店に作業を依頼してください。  固定ボルト

各部詳細

ブレーキ

ブレーキの種類	自転車のブレーキはキャリパーブレーキ、Vブレーキ、ディスクブレーキ等に分類されます。いずれもブレーキレバーを引くことによって制動力が発揮されるブレーキです。CARACLE-SはVブレーキを採用しております。
ブレーキの前後	CARACLE-Sは右側のブレーキレバーが前輪用、左側のブレーキレバーが後輪用となっています。ブレーキを掛けるときは後輪のブレーキをかけて減速し、最後に前輪のブレーキをかけるようにしてください。特に速度が出ているときや下り坂などで前輪のブレーキだけを掛けると転倒する恐れがあり大変危険です。ブレーキを掛けるときは注意して行ってください。
慣らし運転	新品のブレーキの場合、本来の制動力が発揮されるまで慣らし運転が必要です。ブレーキの当たりが出るまでは必ず慣らし運転を行ってください。慣らし運転は時速 10km/h 程度で走行し、繰り返しブレーキ操作を行うことです。
ブレーキの点検	ブレーキは消耗部品ですので、長く使用した場合はシューが減り、本来の制動力が発揮できない可能性があります。ブレーキシューの減り具合は定期的に点検しましょう。偏摩耗や、劣化を発見した場合は乗車をやめ、お買い求めの販売店で部品を交換してください。また異常が発生していなくても消耗品であるブレーキやワイヤー類は経年劣化が進んでいる可能性がありますので、1 年毎で交換を推奨します。部品の交換や、調整はお買い求めの販売店にご相談ください。
ブレーキをかけた時に異音がする	ブレーキをかけた時に異音がする場合は、ブレーキの摩耗やブレーキシューがずれた場合に起こります。そのまま使い続けると事故の要因なり、大変危険ですのですぐにお買い求めの販売店にて相談、点検を受けてください。
ブレーキの調整	ブレーキの利き具合の調整はブレーキレバーに備わっているアジャスターで行います。ブレーキレバーの引きしろが大きい場合はアジャスターボルトを反時計回りに回すことでブレーキの引きしろが小さくなります。調整しましたらアジャスターボルトの奥にあるロックナットを時計回りにしめて位置を固定してください。アジャスターボルトを回しすぎると、タイヤやリムにブレーキが干渉したり、アジャスターボルトがブレーキレバー本体から外れ、調整ができなくなるだけでなく、場合によってはアジャスターが破損することがあります。大変危険ですのでアジャスターボルトが抜けない程度で調整してください。 調整方法でわからない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



各部詳細

タイヤ、空気圧

バルブの種類	現在市販されている自転車のチューブについているバルブは「英式」「米式」「仏式」の 3 種類です。バルブの違いにより空気入れも対応品が必要です。CARACLE-S は仏式チューブを採用しています。
バルブの違いによる空気の入れ方の違い	(英式)軽快車によく使われるよく見られる自転車のバルブです。バルブの金属部分の中に虫ゴムと呼ばれる短いチューブが入っています。バルブのキャップを外し、ポンプを取り付けて空気を注入します。 (米式)車のタイヤにも使われているバルブです。ガソリンスタンドでも空気の注入ができます。バルブのキャップを外し、バルブにポンプを取り付けて空気を注入します。 (仏式)ロードバイク等のスポーツ用自転車に使用される独特な細長いボディ形状のバルブです。バルブの金属部分の先端にコア引き上げネジという部位があり、この部位を緩めてからポンプを差し込み、空気を注入します。 
空気圧の調整方法	自転車用タイヤの空気圧はタイヤによって異なり、指定の空気圧はタイヤの側面に記載されています。空気圧の単位は 4 種類あり、「1kgf/ =1bar=100kPa=14.5PSI」で換算できます。CARACLE-S はモデルにより初期装着タイヤが異なります。DURO 製 20×1.5 サイズの空気圧は、36-80psi (2.5-5.5bar)、Panaracer 製 20×1.25 サイズの空気圧は 65-100psi (4.5-7.0bar) です。 仏式バルブ、米式バルブは、専用の空気圧ゲージで空気圧を測定でき、細かく空気圧を管理することができるので、スポーツ用自転車に多く採用されています。タイヤに空気を入れる際はタイヤごとに設定された規定値内に収まるように入れてください。タイヤの側面に最大空気圧表示が記載あり、その表示を超えて空気を入れると、事故の原因になることもあり大変危険です。空気の入れ方がわからない場合はお買い上げの販売店に説明を受けてください。
タイヤの摩耗キズの点検	タイヤは消耗部品です。長く使用するとすり減り、グリップ力が低下します。タイヤの溝がなくなったら必ず新しいタイヤに交換してくださいそのまま使用されますとタイヤ表面のゴムの奥にあるコードが出てきて、タイヤが破裂することもあり大変危険です。タイヤの溝がなくなったらお買い上げの販売店で交換してください。タイヤ表面にひび割れや深いキズができた場合や、大きな異物が刺さった場合も同様です。

各部詳細

変速機

変速機 & シフトレバー	シフトレバーを動かすと変速ギアが変わり、ペダルを漕ぐ重さが変わっていきます。平地で高速で走る場合には重いギアを、また、上り坂や向かい風の時などは軽いギアを、というように状況に応じてギアの組み合わせを使いましょう。 CARACLE-S は外装式の変速機が採用されています。 右手側に外装式の変速レバーが備わっており、ペダルを漕ぎながら変速します。ペダルを漕がずに変速レバーを操作すると故障の原因となります。 変速レバーにはインジケーターと呼ばれる赤の印が付いており、どのあたりのギアに入っているのかを確認することができます。インジケーターの印が左にあるときは重いギアに入っている状態で、印が右にある状態の時には軽いギアが入っている状態です。  変速は手前のレバーを操作することで軽いギアに変わり、奥のレバーを操作することで重いギアに変わります。  変速の調子が悪くなった場合は、ご自身で調整するのが難しい場合は無理をせず、お買い求めの販売店にて調整を行ってください。
変速時の注意点	次のような変速は故障となる原因となりますので大変危険です。絶対にやめてください。 ● 一気に数段飛ばして変えるような変速。 ● 完全に停止している状態での変速 ● ペダルを逆回転しながらの変速 ● 無理なシフトレバー操作による変速

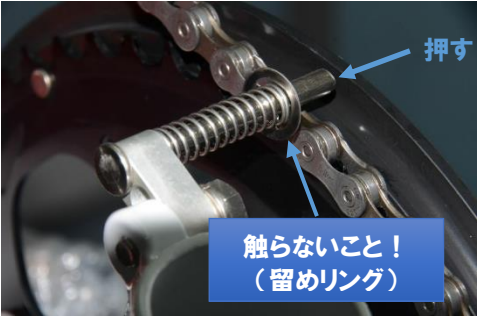
各部詳細

リム

リムの点検	リムはタイヤの固定としての役割だけでなく、ブレーキシューが当たり制動力を発揮するという重要な役割があります。しっかりとした制動力を保つためにもリムの汚れは乗車毎に必ず取り除くようにしてください。 リムの清掃は、よく絞った布で拭き拭き上げます。汚れ等が多い場合は水洗いし、乾いた布で拭いてください。 リムサイドに汚れがあるままブレーキを掛けるとリムサイドにキズが入り、場合によってはブレーキの性能が著しく低下することもありますのでご注意ください。  リムサイド
リムの摩耗	リムはブレーキをかける時にブレーキに接することで摩擦により徐々に摩耗していきます。摩耗が進むと、リムにヒビや、へこみ等が発生し、重大事故につながる要因となり大変危険です。 リムサイドについている溝がなくなった時が交換の時期です。リムの交換についてはお買い求めの販売店でご相談ください。 
リムの振れ	車体を軽く持ち上げ、前、後ろを地面から少し浮かせた状態でタイヤを空転し、目視で左右に歪んで見えるようであれば、リムが振れている可能性があります。リムの振れはスポークの張り調整で多くは修正可能です。リムの振れを放置したまま使用を続けると十分な性能を発揮できないばかりか、重大な事故につながる可能性もあり大変危険です。リムが振れているように感じたら必ずお買い求めの販売店にて相談してください。
スポークの点検	スポークはホイールを支える部品です。使用しているうちに経年劣化等でまれに折れることがあります。スポークの折れを発見したら、ただちに乗車をやめ、お買い求めの販売店で修理を行ってください。放置したまま乗車されますと大きな事故につながる要因にもなり大変危険ですので、スポークが折れたまま乗車するのは絶対にやめてください。

各部詳細

チェーン

チェーン脱落防止機構	車体中央部の最下端に装着されているチェーンガイド(脱落防止ピン)は折りたたみ時のチェーンの脱落や、たるみを抑制します。チェーンが脱落した場合はピンを外側から押し込んでチェーンを戻してください。 
チェーンの点検メンテナンス	チェーンは消耗部品です。錆や劣化が生じた場合は交換が必要です。少しでも錆の発生を防止し、劣化させないためには、日々のメンテナンスをしっかりと行う必要があります。チェーンのメンテナンスを行う際は、チェーンとギアに指等を巻き込んでけがをしないように注意してください。
チェーンの点検方法について	チェーンの点検については以下の点に注意して点検を行ってください。 ● チェーンが油切れしてないか。 ● チェーンにサビが発生していないか ● ペダルを回転したときにチェーンは滑らかに動いているか。 ● チェーンが大きくたるんでいないか。 ● チェーンの一部に動きの渋い箇所がないか 点検時にはチェーン、ギア等に指を巻き込んでけがをしないよう十分注意してください。 油切れやサビを発見したら、ただちにチェーンオイルを使ってメンテナンスを行ってください。チェーンのメンテナンスがされていないと、ペダルを漕いだ時の力がスムーズに後輪に伝達するのが悪くなったり、最悪の場合はその他パーツの故障をまねく要因になり、チェーンが切れて転倒等、大きな事故につながる可能性がありますのでご注意ください。 チェーンオイル等ケミカル類に関してはお買い上げの販売店にご相談ください。  チェーンは使っているうちに摩耗して、交換が必要になります。チェーンの交換の時期等に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。

日常の点検と調整

◎乗車前に必ず点検を実施し、安全を確認してからお乗りください。

◎変形や破損している部品は必ず新品と交換してください。

変形や破損を放置したまま使用を続けると、自転車本来の性能を損ない、また大きな損傷や事故につながる恐れがあります。

各部ネジのゆるみについて

チェック方法

①10cmほど持ち上げて軽く落とす

注:異音やがたつきがある場合はネジ類がゆるんでいる可能性があります。

②左右のブレーキレバーを握り、自転車を前後にゆする。

注:ガタがある場合は、ヘッドがゆるんでいたたり、部品が破損している可能性があります。

フレーム ●変形やひび割れがないか	変速機 ●定期的に注油しているか
サドル ●サドル下のボルトが確実に固定されているか ●限界表示を超えていないか ●シートクランプは確実に固定されているか	注油 ●可動部分に定期的に注油してください。 ただし、ブレーキシュー(ゴム) やリムに油が 付着しない様注意してください。
ハンドル ●シフトレバーの固定 ●ハンドルの固定と角度 ●グリップの固定	タイヤ ●タイヤのキズ、摩耗 ●振れ、ガタ、回転性 ●タイヤの固定(クイックレバーの調整) ●空気圧の点検、補充(前後タイヤ)
ブレーキについて ●ブレーキの利き具合 ●ワイヤーのほつれ、切断 ●ブレーキレバーの固定 ●ブレーキシューの当たり具合	

上記の中で異常が見つかった場合は安全のため、直ちに乗車を中止し、自転車販売店で整備を行ってください。

交通ルールを守りましょう

自転車は道路交通上軽車両として扱われています。

道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからない様交通ルールは必ず守り、安全に正しく使いましょう。

走行中は 道路の一番左側を走る様にしましょう。 後方、右側、前方の安全を常に確認してください。	歩行者の優先 横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。原則自転車は歩道を通行してはいけません。自転車および歩行者専用の標識がある場合のみ歩道での通行が可能です。
曲がる時は 曲がる方向に 30mくらい手前から手で合図しましょう。	信号のない交差点では 左折する時は後方を注意しながら早めに合図し出来るだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。 右折する時は出来るだけ左に寄って交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落として曲がりましょう。
一時停止 一時停止の標識がある時は守りましょう。また、狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏切を渡る時、歩行者の邪魔になるような時などは必ず一時停止して、安全を確かめてから走行しましょう。	信号のある交差点では 正面信号が青の時、直進と左折が出来ます。 右折の場合は交差点の向こう側までまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青に変わってから進みましょう。 交差点進入禁止の標示があるところでは歩道に上がって通行してください。
横断するには 道路を横断したり、交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯がある場合は、そこを通らなければなりません。	

標識を守りましょう

安全のために標識は必ず守り、快適な自転車ライフを送りましょう。



自転車通行止め



一時停止



自転車専用

こんなときどうしたら？

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって後続の自動車を避けます。身体に外傷がある場合は手当てを終えた後、自転車の状態を調べてください。異常がある場合は乗ることをせず、安全のため押してください。



自転車横断帯



横断歩道・
自転車横断帯



踏切あり

その後必ずお買い上げ店で点検、調整を行ってください。

定期点検・整備チェックリスト

点検箇所	点検項目	販売時	2か月	6か月	1年	2年	3年
フレーム、フロントフォーク	変形、折損、ひび割れはないか ヘッド、ハンガー小物にガタや摩耗がないか						
ハンドル	固定は確実か、高さは適正か 変形、折損はないか、軽く回転するか						
車輪	固定は確実か、フレームフロントフォークに接触していないか？						
タイヤ	切傷、摩耗はないか、空気圧は適正か						
リム	変形、振れはないか						
スポーク	緩み、折れ曲がり、切損は無い						
ハブ	ハブナットの緩み、玉押しのガタはないか						
ギヤクランク	ギヤ板の振れヒビ入り曲がり、 ガタは無い、締め付けは十分か						
ペダル	固定は確実か、取り付け部(クランク側に)バリはないか、 軸の回転は正常か、変形、カシメ、ネジの緩み、 ガタ、折損はないか						
ブレーキ	利き具合は適正か レバーの引きしろに余裕はあるか、ワイヤー類にサビやほつれが無い、ブレーキゴム類の減りは無い						
変速機	作動は確実か						
チェーン	油汚れ、たるみは無い、ギアとの噛み合わせは適正か						
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か 取り付け位置、ガタ、損傷は無い						
リフレクター	汚れ、ガタ、破損は無い						
その他	各部のネジの緩み、損傷は無い						
注油箇所	チェーン、ワイヤー、変速機、ブレーキレバー、						
実施店	実施者名	実施店	年	年	年	年	年
保証書に印字されている品番及び車体番号を転記してください。							
品番	車体番号	確認印					

異常なし、調整、注油、修理、交換、掃除その他、装着されていない部品

オプションパーツ (一部)

CS キックスタンド ストロング 	トレバッグ 2 (輪行袋) 	トレバッグ用キャスターE 	トレバッグ用ショルダーストラップ 
CARACLE スーツケース CL-281 	HPP23 (ハンドルポスト固定プラグ) 	CC セイバー (チェーン脱落防止) 	マッドガード DX (泥除け) 
CARACLE ホイールセット SL 	エラストマーサスペンション f.light 	CARACLE スポーツサドル 2 	テレスコピックハンドルポスト 2 
wellgo MG-8 QRD ピンディング PD 	wellgo M138 QRD フラットペダル 	CAEACLE シートポスト ブラック 	ChaletSports ロングシートポストカーボン 
テレスコピックシートポスト 	2way リードパイプ 	CS ブチエンドバー 	CS キックスタンド ライト 

詳細はウェブで！ → www.caracle.co.jp

